



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン：F1 開催に際してのサルマーン皇太子発言

(21 日付現地各紙)

21 日付現地各紙によれば、サルマーン皇太子が F1 会場において、バハレーン情勢に関する報道陣の質問に、以下の通り答えた。

1. サルマーン皇太子は、国民対話に対し楽観的な見方を示した。同皇太子は、全ての当事者が自らの主張を述べるような会合が実施されることは、重要であると述べた。また、同皇太子は、「対話を成功させるために、自分は現在開催されている会合に出席するつもりはない。その理由は、必要な対話の枠組を進展させることについて出席者がまさに議論を行っている所であり、自分が出席することで圧力をかけたくないからである」と語った。
2. サルマーン皇太子は、「バハレーンが F1 の開催地となることで、バハレーン国民が世界と繋がることに役立つと考える。バハレーン情勢が通常であると主張するために、F1 開催を利用したのではない。バハレーンが様々な課題に直面していることは事実であり、既存の政治過程により解決できるものである」と述べた。さらに、同皇太子は、F1 は社会的・経済的な行事であり、多くのプラスの結果がもたらされるが、政治化されるべきものではないとも言及した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799